

情報共有

非管理メモ

N/A 7/7

6ね

— 原子力立地

プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時：平成23年8月6日(土) 18:00~18:45

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約30名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第百三十四報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について(第百三十六報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(8月5日採取分)
- ・ 福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について(8月5日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果(8月6日)
- ・ 福島第一原子力発電所西門付近における新たなダストサンプリング方法の試験結果について
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ(8月6日12時現在)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

- Q. 昨日、福島第一原子力発電所西門付近においてダストサンプリングの検出限界値を引き下げる試験を行っているとのことだが「福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第百三十四報)」にデータが反映していないが。
- A. 本日配布した「福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第百三十四報)」は従来の検出限界値のものである。
- Q. 明日からは追加のダストサンプリング地点でも西門と同様に、新たなダストサンプリング方法で検出限界値を下げて測定していくのか。
- A. まずは西門において新たなダストサンプリング方法で検出限界値を継続して調査していきたい。西門のサンプリング結果の推移を監視しながら、追加のダストサンプリング地点で行うか検討してまいりたい。
- Q. 追加のダストサンプリング地点での検出限界値を下げた測定はいつ頃になりそうか。
- A. 昨日、西門のダストサンプリングで検出限界値を10分の1に下げて試験的に測定し

たが検出限界値を下回っていた。今後、西門での測定結果の推移を確認した上で追加のダストサンプリング地点も検出限界値を下げていくか検討していく。

Q. 追加のダストサンプリング地点でも同様に検出限界値未満を下げることは可能なのか。また見直しはあるのか。

A. 新たなダストサンプリング方法が5時間程度かかるので、測定の間隔をあけるなどの対応をしないと測定器を独占してしまうかもしれない。敷地内の追加ダストサンプリングでは測定器の容量が小さく現状でも時間がかかっているが、検出限界値を下げていくとすると、さらに時間がかかってしまうので、測定器なども見直さなければならぬと思う。今のところ、追加ダストサンプリング地点で検出限界値を下げていくことは未定である。本日、西門のダストサンプリングは新たなダストサンプリング方法で測定している。

Q. 水処理設備のセシウム吸着装置でベッセルのホースが外れていたとのことだが、状況を詳しく教えていただきたい。

A. 各ベッセル上部にはホースコネクションという形状の差し込み口があり、その上部にはハンドル式の弁がついている。ベッセルを交換する際には、この弁を閉め、ロックを外してホースを抜き、ホース側とベッセル側を切り離して運び出す。新しいベッセルを設置する運用としては弁を閉めたままにして、ホースを差し込み待機状態にし、通水する際に弁を開く。本日、予備のベッセルを見たところ、ホースが差し込まれていないことが発見された。

Q. ホースが外れていた原因は。

A. 原因について詳細は不明だが、ベッセルを設置してそのままにしておいたのではなにかと考えている。

Q. ベッセルを据え付けた後、ホースを差し込んでロックをして待機状態にしておくことが通常の運用ということか。

A. その通りである。

Q. 待機ベッセルを使用しようとチェックした段階でホースが外れていることに気づいたのか。

A. その通り。ベッセルは4塔のうち3塔が通水状態であり、1塔が予備となっている。本日ベッセルを2塔交換し予備のベッセルに通水しようとしたところ、ホースが接続されていないことを発見したので、接続して通水した。

Q. ホース未接続によって水漏れや処理遅れなどの事象はなかったという理解で良いか。

A. その通り。時系列としては、11時25分にホースの未接続を発見、11時30分に報告後、復旧作業を開始し、11時43分に作業は完了。11時51分からベッセルの通水を開始し、ほとんど作業に遅れはなかった。弁も閉まっているので漏水といった事象もなかった。

Q. ボーリングで埋設配管が損傷して免震重要棟が停電した件で、図面の確認が出来て

Q. いなかったとのことだが、図面が整理できていないということか。

A. 埋設配管の図面はあり、図面を確認した上でボーリングしたが、作業方としては、配管はないと思って掘りすすめた結果、配電線のケーブルを損傷させてしまった。

Q. ボーリングはどのような目的で行っていたのか。

A. 遮水壁の調査という意味で地層や地下水の状況を把握するために行っていた。

Q. 発電所内でのボーリングの本数は多いのか。

A. 何本掘っているのかについては確認していない。今後、ステップ2の中で遮水壁の基本的な設計を進めているので、今後もボーリングを何カ所か行う予定はあると思う。

Q. ボーリングは発電所のどこで行っていたのか。

A. 集中廃棄物処理施設から山側へ200mくらいのところではないかと思う。

Q. 当該のボーリング箇所というのはかなりの電線管が埋設されているのか。

A. 基本的には道路に沿って埋設している。

Q. ボーリングも道路に沿って行っていたのか。

A. ボーリングの場所をどのような考えで選定していたのかは分からないが、今回の場合は道路の付近だった。林などの場所ではリスクは小さいと思う。

Q. 埋設のケーブルが損傷したとは配管を完全に切断したということか。

A. 3本あるうちの1本ないしは2本が傷ついたという状況。

Q. 8月5日未明の水処理設備の工程異常の警報による一時停止、8月4日の夕方に発生した薬液注入ポンプ停止事象についての原因は最新で何か判明していることはないか。またSARRYの試運転の時期はいつ頃になるのか。

A. 水処理設備の信号渋滞による工程異常の警報についてだが、一過性のものと考えている。警報をリセットした後、各タンクの水位調整をして再起動は問題なく行われている。薬液注入ポンプ停止事象について、一次的な過負荷と考えており、流れている薬液濃度が高い箇所が一時的にあったのではないかと思う。こちらも再起動をして問題なく運転しており、現在2台のポンプのうち1台が故障中のため、このポンプの復旧を検討している段階。SARRYの試運転の時期は8月中旬を予定している。タービン建屋とプロセス主建屋の溜まり水の水位を見ながら判断してまいりたい。

Q. 1号機の使用済燃料プールの代替循環冷却の試運転の見通しは。

A. 8月10日を予定している。他の号機と同様、数時間、試運転して性能の確認ができればそのまま本格運転に移行すると思う。

Q. 2号機格納容器のガスのサンプリング実施の目処は。

A. 配管内の水抜き等の検討が進んでいないので、時期は未定である。

Q. サイトパンカ建屋でのベッセルを洗浄した水のホースからの漏えいについて、復旧

作業の進捗はどうか。

A. HTI へのホースの敷設はまだ実施していない。いつから始めるのかはまだ現場から報告がきていないが、ホースを接続し、ろ過水でリークチェックを行った後、ベッセルの洗浄作業を再開する予定。

Q. 高線量の箇所が主排気筒周辺から確認されているが、発電所での高線量箇所の調査は作業に合わせて行っていくのか。

A. 発電所の敷地の屋外や建屋内で高線量の箇所を一斉点検するようなことは作業員の被ばくにつながるので予定していない。都度、作業に合わせて線量の事前調査を行っていく。今回、主排気筒で発見された 10Sv/h、3.6Sv/h の高線量の線源については、推定されるシナリオや配管の構造などを調査している。

Q. ベントの可能性が高いとの説明であったが、ベント以外で何かしら想定されるものがあるのか。

A. 今のところ格納容器ベントが可能性として大きいと考えているが、断定できる証拠が見つかっていないため、このようにご説明している。また、何か有力な他の原因があると想定しているわけではない。

Q. 3・4号機は水素爆発で押し出された可能性があるとのことだが、新たな知見はあるか。

A. 3・4号機についても格納容器のベントは行っているが、1・2号機と同様な配管底部のカメラでも高い線源が見つかっていない。

ベントにより同じように放射性物質の放出されていると思われるが、1・2号機と違う点としては、水素爆発の程度の問題、また、3号機はウェットベントのため水を通っている。1号機はウェットベントであったが、2号機はドライベントにもトライしており、成功したかははっきりしていないが、一時的に線量が増えた可能性として考えられるため、今後調べていく必要があると考えている。

Q. 3・4号機の線量が低いのは何か理由があるのか。

A. 1・2号機が高線量なのに、3・4号機側は低いレベルなのかについては、同様にベントを行ったのに違いがあるため、調べてゆきたい。

Q. 10mSv/h の件について、3m 離れた場所の雰囲気線量が 40mSv/h とのことだが、そこまで低減するものなのか。

A. 理想的な点線源であれば距離の2乗に反比例し、3mでもそれなりの線量になると思われるが、今回は SGTS 配管の下部に線量計をあてて測定しているため、線量が真下方向には強いかもしれない。また、横方向については配管金属による遮へい効果が少しはあると思われるし、線源の形状そのものが点か面かで配管の底に溜まっているのかわからないため、距離による線源の低減状況は計算上とは違うと思われる。

Q. 3m の場所で 40mSv/h は実測値か。

A. その通り。

Q. 線源が 10mSv/h と高いが、これまで横を通ることによる大きな被ばくはなかったのか。

A. 以前、主排気筒の周辺にはガレキがあり、直接排気筒の底部に近づくことができなかつたし作業もなかつた。今回、ガレキの撤去を行った後、どのぐらいガレキからの影響を低減できたか確認するため、γカメラで測定したところ、2箇所ほど線量が高いところが見つかった。

Q. 今後、1・2号機周辺作業における作業改善についての方針は。

A. 直近の影響としては、主排気筒周辺での作業は予定していないため影響はないと考えている。8月中旬から1号機カバー工事において、鉄骨建方作業が予定されているが、クレーンを遠隔操作し、作業員自身が近づくことはない。

今後、主排気筒の先の原子炉建屋にコンテナを造るとか原子炉冷却の送還機を設置する等の工事があるのであれば、鉛毛マットや鉄板などついたてをして、周囲の線量を下げることもあるかもしれない。

Q. 遮蔽すれば配管内の除線をしなくてもよいのか。

A. 作業する上では遮蔽で十分と考えている。なお、洗浄などで除線するのは、配管が大口径であるため、難しいと考えている。

Q. 周辺の雰囲気線量が 40mSv/h というのは、3.6Sv/h の高線量が確認された時か。

A. 10Sv/h の高線量は確認されたときに、作業員が立っていた場所の雰囲気線量である。

Q. 10Sv/h が見つかった時は、高い場所にあったと思われたが。

A. γカメラの画像では、下の方、上の方の2箇所で確認されている。10Sv/h が測定されたのは、下の方のSGTS配管の底部である。上の方は10m以上の高所であり、ホットスポットモニターが使えないため、まだ、測定は行っていない。

Q. 3.6Sv/h は、10Sv/h の場所と違うのか。

A. 10Sv/h から1~2mの距離ではあるが、配管そのものは違うもの。

Q. 3.6Sv/h が確認されたときの、作業員の被ばく線量は。

A. 当社社員が測定を行っており、被ばく線量は2~3mSvである。

Q. 10Sv/h が確認されたときと被ばく線量は変わらないのか。

A. 4mSvである。

Q. 7月31日~8月1日にかけて、高温焼却炉建屋の水が下がっているが水を抜いたのか。

A. そのとおり。

Q. プロセス主建屋へ移送したのか。

A. そのとおり。

Q. 現状、2・3号機からプロセス主建屋への移送とプロセス主建屋からの水処理は、

両方とも続けているのか。

A. 実施している。

Q. プロセス主建屋の水位は1日当たり10mm程度しか下がっていないが、今後もそのような計算で処理していくのか。

A. プロセス主建屋の水位は、本日配布した資料では1日37cm下がっており、順調に処理が進んでいる。

Q. 8月4日～8月5日は水位が動いていないのはなぜか。

A. 水処理が停止があったため、水位は下がっていない。

Q. 水処理関係で松本さんが把握していない部分があったかと思うが、その点については確認できたのか。

A. 今回の洗浄ラインの他にもあるのかについては、確認しているところ。

以上